

廿日市市宮島包ヶ浦自然公園の現状について

1 設置の経緯と施設概要

包ヶ浦自然公園は、昭和 53 年に包ヶ浦で開催された「自然公園大会」を契機に順次施設が整備され、昭和 59 年に全面供用開始した。主な施設として、ケビンや海水浴場、キャンプ場などがあり、宮島の魅力を高めるためのレクリエーションエリアとして、これまで市内外から多数の利用者が訪れてきた。

《主な施設概要》

施設名	建築年	保有機能
管理センター①	S55	事務室、食堂、浴場、売店、集会室
ビーチハウス②	S53	休憩室、シャワー室、更衣室、売店
家族用ケビン③	S56	8 棟 16 戸（各戸定員 4 名）
団体用ケビンA④	S57	13 棟（6 棟-定員 14 名、7 棟-定員 24 名）、炊事棟、ケビンハウス
団体用ケビンB⑤	S59	2 棟（定員 16 名）
テニスコート⑬	S55	レストハウス
運動広場⑮	S55	15,000 m ² （天然芝）
キャンプ場⑯～⑲	S55	管理棟、炊事棟、トイレ

2 施設改修

園内のほとんどの施設が築 40 年以上経過しており、施設の老朽化や見た目の古さが目立つような状況となっている。これらを改善するため、現有施設の機能回復や長寿命化などの改修工事を行い、利用者に安全・快適に過ごしていただくための“空間づくり”に取り組んできた。

種別	内容
工事实績	平成 28 年度～令和 2 年度
対象施設	家族用ケビン、団体用ケビン、管理センター、屋内炊事棟、ケビンハウス、ビーチハウス、給水施設、案内看板など
支出事業費	約 3 億円
工事内容	屋根葺き替え、軒裏改修、内外装改修、床面改修、浴槽・トイレ改修、備品等更新（空調機器、冷蔵庫、ベッド及びベッドマット、畳など）、風呂ボイラー更新（ケビンハウスのみ）、老朽化した案内看板の更新など

《改修実績》

（単位：千円）

	H28	H29	H30	H31	R2
家族用ケビン	2 棟	3 棟	1 棟		
団体用ケビン		2 棟	5 棟		
その他			管理棟・外灯など	テニスコート	設計
工事費	31,607	112,612	119,326	18,348	10,582

3 利用者数の推移

統計の残る昭和 56 年度以降、利用者数は順調に増加し、平成 3 年度には 16 万人を超える施設利用者を記録している。しかし、その後減少に転じ、平成 9 年度には 10 万人を、平成 16 年度には 5 万人を割り込み、直近 5 年間は次のとおりとなっている。

近年、宮島への来島者数は伸びていることから、利用者数低迷の原因は、①施設の老朽化、②屋外レジャー行動の減少にあると考えられる。レジャー白書によると特に顕著に減少している屋外レジャー行動は「キャッチボール・野球」と「海水浴」となっている。

《施設利用者数》

(単位：人)

施設名	H30	R1	R2	R3	R4
ケビン	8,040	7,494	2,908	3,013	3,423
キャンプ場	9,618	5,883	3,148	2,732	2,276
グラウンド、海水浴	33,298	26,519	12,072	9,834	13,949
合計	50,956	39,896	18,128	15,579	19,648
(参考) 来島者数	430 万人	465 万人	220 万人	188 万人	283 万人

4 市の財政支出の状況

(単位：千円)

	H30	H31	R2	R3	R4
指定管理料	15,000	10,074	18,985 (コロナ対策含)	14,326 (コロナ対策含)	10,911
リニューアル事業	119,326	18,348	10,582	41,652 (R2 繰越)	0
その他(小修繕・委託等)	7,993	9,665	5,412	17,933	11,327
合計	142,319	38,087	34,979	73,911	22,238

5 検討課題

- (1) 宮島包ヶ浦自然公園 (15.5ha) の維持管理
- (2) 利用者の減少